



俵 万智選

海カフエのスパゲッティーをこの旅のエンドロールにして巻き上げる 古賀市 砂山ふらり

【評】下から上へ流れてゆくエンドロールと、スパゲッティーの動きの重なりが楽しい。三つのカタカナ語が、しゃれた映画のラストシーンのような場面をうまく盛り上げている。ゴミ捨て場であいさつだけを交わす人袋の中のアルミ缶鳴る 広島市 宇井モナミ

【評】日常の中の淡いつながり。それでも一つの人間関係ではある。アルミ缶には暮らしている感じがするが、何の缶なのかまではわからない。距離感と絶妙に重なるアイテムだ。蜂蜜のたるる速度のなめらかさこのやうにして叱ればよかった 匝瑳市 椎名 昭雄

【評】怒りにまかせて勢よく叱ってしまったのだろうか。蜂蜜の比喻は、その速度に加えて艶や甘さも感じさせる。幼児語がしだいに剥がれてゆくきみへ「だいいじはへりかえし言う 広島市 木村 佳慧

非常時はここを破って平日へ（平穏な日へ）避難できます 大野城市 亀田 巧

朝獲れ！の札は光って横たわる魚の今日がみんな命日 東京都 鳥さんの臉

量的な祈りではなく質的な祈りで満ちた墓石が光る 横浜市中 真夜

丹念に盆に彫られて模様なすうろこ百枚みな左向き 太田市 木戸 健房

君が手を振り終えてから手を振った決意が重なり合わないように 松原市 たりりずむ

自由という言葉の範囲を考える無限と言えないそこに人がいる さいたま市 長谷川幸子



黒瀬 珂瀾選

家隆の拝みし難波の入り目をば高層ビルの窓め眺むる 枚方市 衛藤 聡一

【評】藤原家隆の「契りあれば難波の里に宿りきて波の入り目を拝みつるかな」を踏まえた一首。大阪市天王寺区の夕陽ヶ丘には家隆の墓と伝わる塚が残る。八〇〇年の時を越えて同じ夕陽を見る。歌と歴史のロマンですね。しらべのみまとしてすはださしおりてんやくすみしたんかのむれは 群馬県 金沢 敬子

【評】点訳された短歌は、表意的な漢字を使用しないため一度、純粋な音に戻る。こうして短歌が多くの人に伝わるのですね。故郷の駅が間近と気づかせ三連続のポイントの揺れ 南魚沼市 木村 圭

【評】この独特な揺れは列車が故郷に近づいた知らせ。何度このポイントを行き来して里帰りしてきた。土地と人の記憶の一端です。この土手の夏を守るとひまわりの群れがすくと立ち上がる朝 平塚市 風花 雫

ふたたびは来ることなけむ鷺子山あちさあ賞でつつ石段上る 宇都宮市 福田 滋子

己が身に餓鬼の棲みおり老いてなお薬飲み飲み酒飲む日々の 水戸市 加藤木よういち

あふむけの蟬の抜殻いま一度木肌に置けばしかと離さぬ 神戸市 西 和代

三回思うから集ひて酌みかはすヒレ酒つまし十三夜の月 新居浜市 矢野 浩子

湧き水を手酌で飲めば屋久島に血潮は冷えて千年の杉 北本市 漆野 香

わたくしに夏野のような青色があったころなど誰もしらない 東京都 青木 公正

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌（俳）壇、〇〇先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はとうもろこし